

別紙様式

「児童生徒、もしくは教職員のコミュニケーション能力の育成・向上」に関する実践事例

| | |
|--------------|--|
| 学校名 | 萩市立明倫小学校 |
| テーマ | 教職員のAFPYの概要理解と実践 |
| 対象者（学年） | 教職員 |
| 実施場所 | 明倫小体育館 |
| 内容（具体的な取組） | <p>(1) ねらいと展開</p> <p>○ねらい AFPY（アドベンチャー・フレンドシップ・プログラム・イン・ヤマガチ）の意義や指導法について、教職員が体験活動をとおして理解することで、教育活動に積極的に取り入れていこうとする意欲と技術を身に付ける。 また、教職員相互のコミュニケーション能力を養い、信頼関係を深めるとともに協働の精神を培う。</p> <p>○展 開</p> <p>①AFPYの概要説明 〈ねらい〉・仲間づくり（信頼関係を築く） ・個人の成長（自信を回復し、自己意識を高める）</p> <p>〈分 類〉・知り合うための活動 ・緊張をほぐすための活動 ・意思疎通を図るための活動 ・信頼関係を確認するための活動 ・意志決定・課題解決のための活動</p> <p>〈進め方〉・説明（条件と課題提示・ルールの確認） ・話し合い（目標設定・作戦の決定） ・実施（挑戦） ・ふり返り ・日常化</p> <p>②AFPYの実践</p> <p>I 〈アイスブレイク：緊張感をほぐす〉 ・鬼ごっこ各種（みんなおに・バナナおに・頭星人おしり星人おなか星人） ・ミラーストレッチ ・パワー梅干し ・ラインナップ ・キャッチ</p> <p>II 〈ディインヒビタイザー：抑制をゆるめ、うちとける〉 ・ジップザップ ・スピードラビット ・前後左右</p> <p>III 〈ビーイング：グループの規範をつくる〉</p> <p>IV 〈イニシアティブ：グループで課題を解決する〉 ・ブルズアイ ・ヘリウムフープ</p> <p>(2) 実践の工夫</p> <p>○机上で学ぶのではなく、活動を中心に、理論的なことを交えて行う。 ○学級経営の中で効果的に生かすよう、児童に指導することを実際に体験する。 ○身近にある簡単な道具を使ってできる活動を研修する。</p> <p>(3) 成果及び課題</p> <p>○教職員が実際に体験することで、指導技術が身に付くとともに活動の効果が実感できた。また、学級経営に生かしていこうという意欲が高まった。 ○教職員相互のコミュニケーション活動が活発になり、意思疎通を図ったり信頼関係を確認し合ったりすることができた。</p> <p>●ふり返りの時間を確保する必要がある、より効果的なふり返りの仕方の研修が望まれる。 ●AFPYの年間指導計画への位置づけを行い、計画的・系統的に実施していくことが大切である。</p> |
| 参考資料等 | グループの力を生かす（PAJ著 みくに出版） みんなのPA系ゲーム243（諸澄俊之著 杏林書店） |
| 学校ホームページアドレス | http://edu.city.hagi.yamaguchi.jp/meirin-e/ |